拓水

題字は　県漁連三浦会長

10月号
No. 109

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人　三浦清太郎
TEL(67)6301
6685
編集　拓水編集委員会
発行日　毎月　30日
一部10円
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

台風23・24号の災害復旧対策について陳情

台風23・24号の被災者のかたがたには、つつしんでお見舞申し上げます。九月二十四日台風被害状況調査視察のため、兵庫県を訪れた坂田農林大臣に対し水産業界を代表して県漁連三浦会長より次のとおり強く要望、陳情をおこなった。

陳情書

九月十日本県を南北に縦断した台風二十三号は近年にない暴風雨となって県下全域にわたって水産関係に相当な被害を与え、更に引き続く台風二十四号によって増大し、被害総額は四億三千万円に達しました。

特に台風二十三号の通過した神戸市より姫路市にいたる地域、家島群島、淡路南部地域の被害は甚大で、その惨状は目をおおわしむるものがあり被災漁業者は、その日より収入の途を絶たれ業界としては、これが対策に苦慮しているところであります。

これら被災地域におきましては、殆んどの施設が早急な復旧対策を必要とするものでありますので、沿岸零細漁業者の窮状をご賢察のうえ、次の事項につきまして、格段のご援助を賜わりますよう陳情いたします。

昭和四十年九月二十四日

農林大臣　坂田英一　殿

兵庫県漁業協同組合連合会
会長理事　三浦清太郎

要望事項

(1) 被害漁家に対して「天災融資法」を適用し、早期融資と貸付限度の引き上げを図られたい。

(2) 被害地域一円を「激甚災法」にもとづく激甚地域に指定し、特別の援助措置を講ぜられたい。

(3) 漁港、共同利用施設は緊急に復旧を要するので、早急に査定を実施されたい。

(4) 被害を受けた漁船は緊急に復旧しなければならないので、漁船保険金を早急に支払うよう措置されたい。

(5) 沿岸漁業構造改善事業にもとづき融資を受けている被災漁業者については、貸付金の償還期限を延期するよう措置されたい。

台風二十三、二十四号による水産関係被害概況

昭和四十年九月十九日現在

沿岸漁業関係	一、〇七一件	二〇二、二一七千円	
養殖関係	三二件	一四〇、五〇七千円	
漁港（県営漁港を含む）	関係二八件	八八、四〇〇千円	
計	一、一三一件	四三一、一二四千円	

組合税務並びに組合経営等に関する相談室の開設について

このことについては八月二十五日付にて各組合長宛左記のとおりご連絡いたしましたが、更に詳細についてご案内いたします。

◎毎月五日までにご連絡下さるよう、ご通知いたしましたが、五日以降に問題が起りましたら電話でも結構ですからご連絡下さい。

◎なお、相談日には出来るだけ本会迄お出掛け下さい。

◎相談料は不用です。

記

(1) 相談日時　（原則として月一回）
毎月第3木曜日午前9時30分～正午迄

(2) 場　所　水産会館

(3) コンサルタント
梅村新一郎氏（公認会計士）

(4) 相談要領
相談事項がありましたら、相談事項の項目と概略について、記入の上毎月5日までに本会にご連絡下さい。
尚、緊急な場合には、電話連絡にても結構です。

（県漁連）

座談会「対馬を視察して」

本年八月七日から十二日までの六日間、青年漁業者十二名（但馬十名、内海二名）が対馬海域を視察した。

この視察は、今後の対馬出漁をすすめるためのものであるが、視察も滞りなく終り、最後の一夜、対馬西瓜に舌鼓を打ちながら、その感想を語りあった。

漁船は大型化

司会　五泊六日という強行な日程でさぞ疲れた事でしょうが、対馬のイカ釣漁業を視察した感想について伺いたい。先づ漁業の概況について気付いたことを話してほしい。

A　但馬地方では人工漁港で良港はあまりないが、こちらは何処へ行っても港が入江になっていて、天然の良港が多い。

B　対馬の人は素朴で外来者にたいして非常に親切であった。また県下から、平田、阪東さんが渡対永住しており、この視察でも非常にお世話になり、初めて来た土地という感じがしなかった。

C　造船所が多く見受けられ、どの造船所も大型化した新船が建造中であった。この大型化の傾向からみて、まだ生産の増加に余地が残されていると思う。

B　大型船ほど漁場が伸び一人当りの水揚が増えるという有利性で、年々大型化して来たと思う。

E　近年近代的設備をした県外の大型船の激増により刺戟されたことにもよるようだ。

D　漁業ではイカ一本釣が主で他の漁業はあまり見受けられなかった。

魅力のある冬イカ漁

司会　対馬の漁業はイカに依存しているようですが。

B　但馬地方でも沿岸漁業者は七〇%位はイカに依存しているが対馬のように九〇%ほどでもない。

C　こちらは、冬イカで年間の五〇%を生産しているが、但馬では六月～八月が盛漁期で冬イカには依存していない。

B　但馬では冬イカの来游は年により変動があり皆無の年もあるが、対馬では年間の変動が少いということは冬期間の出漁に魅力を感ずる。

D　私のところでは、冬イカのことをボーナスイカともいっている。

F　対馬の冬イカは、東海岸に漁場が形成されるため、季節風の影響を受けることが少なく風のため漁業日数が多いことは、但馬に比べて相当な魅力だ。

E　イカ資源は多く、大量に生産（全国生産高の一〇%弱）されるが、安価で一匹二〇～三〇円で、生売りの値立は相当業者に支配されている感じがした。

G　釣の漁法は但馬とは変らない。

司会　イカ釣の漁具漁法についてお気付のことは。

F　集魚灯のことだ。三KWットに制限され、電球一Kワット三個甲板上につるして、両舷操業しているが、光を散乱して光力を失なっている様に思えるが。

G　こちらの人は、中央につるした方が船影が大きくイカが大量に集まるといっていた。

B　このことは、イカ釣漁船の大型化によっても明らかであるともいっていた。

F　但馬の出漁船が、毎年出漁しているが、釣の技術は決して地元に劣っていないと、きいている。

平岡さんを囲んでの座談会

G　地元船では個人差が大きいといっていたが、反面獲りにくいという感じもした。

A　寒中の夜間の漁業であり、この点体力、気力にもよると思うが、但馬の漁民なれば充分に働けると思う。

C　冬イカ釣の漁具は、あまり変りはないが疑餌（トンボ）と疑餌の間隔が短く（対馬一、五尺位）で疑餌は多くついている。これは魚群が厚いので短かく多い方が能率的であると思う。

F　潮帆は、但馬に比べて小さいが風波が但馬より弱いためではないかと思う。また冬期の盛漁期には流れと波と反対になるので小さくともやっていけると思う。

D　現在の潮帆では流れ過ぎてこちらの業者とトラブルをおこす原因になりはしないだろうか。

スルメイカは生でもうれる

司会　こちらでは、スルメ加工向けが多いが、鮮魚売りも年々増加の傾向だし、また地元でも流通対策に真剣に取組んでいるようですがこの点気付かれたことがあれば……。

E　鮮魚売りする場合、但馬では水氷を使っているが対馬では直ちに砕氷で箱詰めしている。水氷ではイカがふくれるといってきらうそうだ。

D　水氷の研究なり経験が不足していると思われるふしもあるが、但馬より市場に着くのが遅れるためではなかろうか。

E　但馬の仲買業者の箱詰を沖合で漁業者が行なっている感じだ。

E　但馬よりスルメイカの値段が安い。組合で系統出荷しているので、スルメ加工品は価格も維持されているそうだが、鮮魚の場合は、鮮魚運搬業者にたよれることが多いといっていた。但馬漁船が多数出漁するなら、船団で鮮魚運搬船を借入れて、消費市場に直接出荷することも考えたら良いと思う。

F　但馬には構造改善事業で集団操業指導船が3隻ある、これを漁業指導と運搬を兼ねて使用させていただくことも良いと思う。

出漁先は

司会　小網、芦ケ浦、佐賀、賀谷、鴨居瀬等の漁港なり漁業の概要を視察したが、何処の漁港を根拠地として適していると思いますか。

H　一通り見たのみでは、何処が良いかいえないが、冬イカは北から南へ漁場が移動する関係で対馬の中央部が良いと思う。

G　県の船団宿舎がある芦ケ浦は港も入りやすく、また地元でも県の受入について頗ぶる乗り気であるし、また本県からの渡対者阪東さん（いか一本釣漁業を営む）も在住しており始めて行くには他所より適当であると思う。

B　芦ケ浦は他に比べ外来船が少ないということは、流通面が弱体ではなかろうか、受入船数も二十隻が限度であるときく、しかしスルメの単価は他と変らないという。

I　部落は散在し小さな田舎という感じだ。

C　多く船が集るところほど漁況、市況が早くわかり便利だ。運搬船も多く集るが大漁の時とか時化で運搬船のないときは大きな打撃を受けはしないかと心配だ。

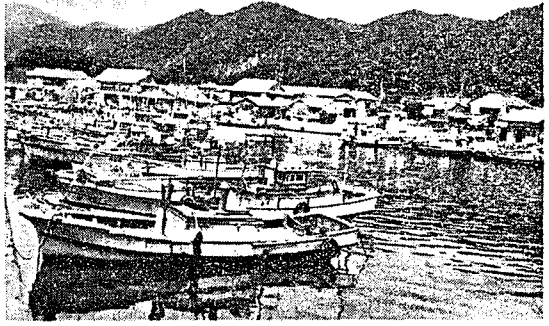
H　佐賀、鴨居瀬など何でも間に合う港町という感じがするが反面金が残りにくいのではなかろうか。

G　芦ケ浦では、宿の準備（加工人夫雇入）の都合で早目に出漁の連絡を望んでいるが、但馬の冬イカの見通しがつかない限り態度が決りかねる。

B　そのような気持では県外出漁は出来ないと対馬の人もいっていた。

A　三日あれば但馬から対馬に着くから単に漁場の延長として出漁する習慣が出来れば別だが、始めの出漁は、一獲千金を夢みないで試験的操業といった気持で

（二面に続く）



対馬の漁港（佐賀漁港）

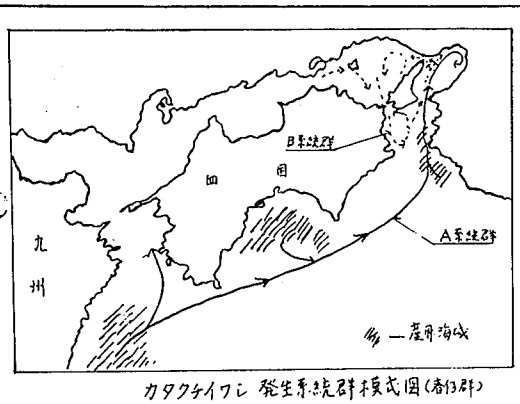
今年のイワシ漁況（第五報）

(1) 九月の海況

七月下旬に長梅雨があけて以来、八月いっぱいは晴天がつづき、大阪湾、播磨灘の表層水温は二十七度～二十九度Cを示し例年より高目となった。

しかし九月上旬の観測結果では例年よりやや早く水温の下降が認められ、さらに台風二十三、二十四号の通過によって上下水塊の混合が顕著で上下層水温の差は二度C内外と小さくなり両海域とも二十四～二十五度Cを示し、十月には例年水温より低目となるもよう。

一方塩素量は八月中旬まで、両海域（特に播磨灘）とも例年より低鹹を示していたが、以後河川水の流入量が急減したため次第に回復、さらに大阪湾では黒潮分枝流の影響が強まって北部域まで十m層以深は高鹹水塊が認められた。しかし前記の台風通過後は再び河川水の流入量が増加して十m以浅では低鹹水で蔽われている。



カタクチイワシ　発生系統群模式図（春仔群）

(2) カタクチイワシの産卵状況

今年の大阪湾、播磨灘における四月以降の産卵状況は極めて低調であったが、九月上旬の観測結果では、大阪湾では狭い範囲であるが濃密な産卵域が認められ、播磨灘でも前月よりやや産卵域は拡がっている。これらの産卵は、八月中旬頃から紀南方面から入り込んだ大羽群によるものであるが、過去十二カ年の産卵結果からみて量的には少い。

(3) カタクチ魚群の出現状況

今年は、春仔外海発生群と大阪湾、播磨灘両海域での発生量も少なかったため、四～八月の魚群量は少なく不漁を続けている。これは今春の低温が長引いたことが大いに影響していたことが大いに影響している。八月中旬以降前記のように黒潮分枝流の影響がやや強まったため、紀伊水道で停滞していた大中羽群の一部が大阪湾中南部域に達し漁獲されているが、魚群調査の結果では連続性がなく安定した漁場形成は望めない。ここ二～三年の傾向として、春仔発生量の減少が、両海域における魚群量（漁獲）を不安定にしていることは明らかである。

(4) 今後の見通し

第三報で既述のように、昭和三十六年ごろから大阪湾、播磨灘（特に大阪湾）におけるカタクチイワシの減少傾向（当才魚群の）が目立ちはじめている。昭和三十二年前後の好漁期には、両海域でのカタクチイワシ漁獲量の九十%前後は当才魚であり、その中春仔群（外海、内海発生群も含めて）が六十～八十%を占めていた。このため夏から秋にかけての魚群量は豊富で、多少の海況変化があっても漁場の安定性は保障されていたが、最近では春仔群の発生量の減少によって持続的な漁獲がみられず、またアジ、サバなどの増加現象も生じている。図に好漁期の南海及び内海におけるカタクチイワシの発生系統群の分布洄游の模式を示した。好漁期にはA系統の発生量が豊富であり、しかも夏～秋を通じて連続的に大阪湾に添加されていたが、最近ではA系統の発生量、添加量が漸減してB系統のものが目立ってきている。図に示したA系統のものは、B系統のものより、産卵期間や海域的な条件から少量であるため、当才魚群量としても少い。

今年は、水温の下降もやや例年より早い傾向であり、春仔はもちろん、夏仔の外海域からの添加も認められていないので、十～十一月の秋漁は間けつ的な夏群（冬羽を含めた）の出現による漁況がつづくものと思われ、安定した漁場形成は望めない。昭和三十四年九月の伊勢湾台風後、急激にカタクチシラスの来遊がみられたこともあるが、今年の南海域でのシラス量は大して多くないので急激な海況変化による魚群の来遊も期待はうすい。（浜田）

海技従事者養成講習会（丙種船長・小型船舶操縦士）並に臨時試験開催結果

一、講習期間

丙種船長　昭和40年7月1日～7月31日　1カ月

小型船舶操縦士　7月26日～7月30日　5日

二、臨時試験

昭和40年8月2日　身体検査　会場　漁業センター大会議室

8月3日　筆記試験　会場　県立香住高等学校

8月4日～6日　口述試験（丙種船長のみ）漁業センター

三、講師

丙種船長　県水試　竹末・菅原両課長　小型船舶操縦士　同　名角技師

四、試験官

神戸海運局　平田先任海技試験官・桜井海技試験官

五、合格者名

1　丙種船長

（所属）	（氏名）	
津居山	石塚	保雄
〃	若狭	正美
〃	瀬渡	昌行
〃	古西	勝之
〃	松本	寛二
〃	磯橋	敏雄
〃	計 6	名
柴山	松井	晃宏
〃	柳本	一之
〃	松森	光男
〃	計 3	名
香住	小林	磐
〃	本多	栄治
〃	浜本	利将
〃	森	俊一
〃	浜本	貞夫
〃	田中	誠
〃	山口	康明
〃	宮崎	秀次
〃	浜上	保雄
〃	計 9	名
浜坂	森田	国男
〃	門脇	覚
〃	川越	栄一
〃	塩川	昌一
〃	計 4	名
諸寄	熊本	吉郎
〃	山崎増太郎	
〃	大谷	猛
〃	計 3	名
居組	山口	豊
〃	西垣酒造雄	
〃	西垣	富雄
〃	尾崎	富夫
〃	計 4	名
その他	橋坂	友行
以上計	30	名

2　小型船舶操縦士

津居山	今井陽次郎	
〃	松島	一男
〃	新谷	昭男
〃	高橋	巌
〃	西村	浩一
〃	萬谷	勲
〃	大坪	義男
〃	大津	敏夫
〃	瀬渡	隆夫
〃	古西	広信
〃	松本	文雄
〃	藤井	肇雄
〃	豊田	孝
〃	今津	健一
〃	船谷信一郎	
〃	前場	志郎
〃	真野	貞一
〃	脇	勝美
〃	磯橋	菊造
〃	石谷	秀一
〃	植田	栄一
〃	山田	二郎
〃	樫本	安治
〃	佐野	芳雄
〃	石橋	憲一
〃	福井	孝氏
〃	森下	光男
〃	岩井	芳雄
〃	白藤	孝男
〃	山本	槙男
〃	尾田	和応
〃	上田	恒夫
〃	山本梯一郎	
〃	吉田	春治
〃	坪	義則
〃	豊岡	豊
〃	真野	豊
〃	計 37	名
柴山	橋本	順久
〃	神田喜佐雄	
〃	藤原	勝
〃	藤原三四郎	
〃	金子	正雄
〃	藤原	恒夫
〃	吉津	実
〃	藤原	良則
〃	黒崎	久雄
〃	松井	勇
〃	計 10	名
香住	永田	紘司
〃	守山	正幸
〃	山口	義三
〃	計 3	名
余部	田中	金蔵
〃	計 1	名
浜坂	藤原	栄治
〃	松本	長治
〃	計 88	名
〃	松岡	耕一
〃	加藤	忠
〃	陳在	一
〃	計 6	名
諸寄	中村	薫
〃	尾崎	鉄治
〃	計 2	名
居組	米谷	是清
〃	計 1	名
（その他	28	名 以上

司会　ではこれまで終りたいと思います。本日は予想以上の活発なご意見等をいただき、ありがとうございました。（豊岡農林事務所水産課吉野技師）

（一面よりつづく）

司会　対馬に出漁するとすれば、どのようなことが問題と思いますか。

C　乗組員の問題がある。但馬のように親子二人の乗組の場合、冬でもあり年寄りは県外に出るのを嫌がるので若い者だけで船団を作って出漁しなければならないと思う。

A　生売りの場合は直ちに氷に並べないと色が消えるので一人がこれにとられることになる。少ない乗組員で一人減る結果になる。

F　但馬船は魚艙の構造が水氷用に狭く多く作ってあるので、五トン級の船でないと、トロ箱を充分に収容する余裕がない。

H　対馬に出漁の場合には大型船ほど有利といえるが、小型船ではスルメ加工に売るのを主体にするしか考えられない。

G　発電機の問題がある。但馬海域では発電機は二Kワットに制限されている、そのまま来るのは火力に不安を感する。対馬に来る以上対馬並みの装備が必要だが、短期間の出漁に二十万円も投資することはしんどい。

A　一応対馬も三Kワットに制限されているが大型船は七Kワットの発電機を使用しているというから同一漁場での操業は火負けしないかという不安がある。

D　阪東さんをはじめ地元の漁船は二Kワットで充分操業をしている。但馬の場合殆んど直流式であるのである程度の無理はきくと思う。

F　対馬では潮の変り目にイカが良く釣れるそうで、汐流と漁獲の関係が密である。但馬では潮汐による漁獲はあまりないので、対馬における潮汐の変化等を勉強しなければならない。

I　内海では冬でも底曳はかなりの漁があり、船型とか、船の大きさでもイカ釣に出漁することは無いと思う。

A　芦ケ浦の県の船団宿舎は非常に老朽化していた。今後私達が出漁しても不自由のない建物に改造するようなことは出来ないだろうか……。

B　但馬と対馬とでは、冬に風であれば水揚額は余り変らないが、但馬は時化で対馬は風であることに出漁の魅力を感じイカも資源的に恵まれ働きやすい環境にあるので一度来て見たい。

海洋辞典

ラジオ、テレビなどの天気予報をきいたり、新聞の天気図を見ると毎日のように寒冷前線とか、温暖前線という言葉をきくのですが、これらはいずれも不連続線の一つです。このような不連続線が近づくと天気が悪くなることは大体知っている人が多いと思いますので不連続線とはどのようなものか、又これが近づくと何故天気が悪くなるかを説明します。不連続線には次のような種類のものがあります。

1、寒冷前線
2、温暖前線
3、閉塞前線
4、停滞前線

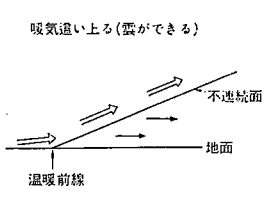
以上のような種類がありますが、これはいずれも二つの性質のちがった気団（空気の塊）が接しているとその境界に、丁度一つのコップに入っている水を同じ温度の水の入った他のコップに入れた時のようにすぐに入りまじらないで、橋端にいうと水と油をまぜた時にできるような境界面ができます。即ち暖い湿った空気の塊と、寒冷な乾燥した空気塊とがふれ合っているところに、はっきりとした境界面（不連続面という）ができ、この面が地面と交はる線を不連続線といわれております。（別図）

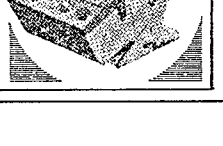
寒冷前線……寒冷な空気の勢力が強く、暖い空気を突き上げながら、くさびのようにつっこんで進んでいる不連続線で、暖気は急激に上昇し、積雲（むくむくとした雲）や積乱雲（入道雲）をつくり、にわか雨や、にわか雪を降らせることが多く、また突風を伴うことがあります。

温暖前線……暖気の勢力が強く、暖気の方から寒気の方に移動している不連続線で、暖気は寒気の上にはい上り上昇気流ができます。従ってここには多量の雲ができて雨が降る。この雨は連続的で地雨性で、ときには霙雨となることもあります。

閉塞前線……低気圧の進行に伴って起こる現象で、普通寒冷前線の進行速度が温暖前線の速度より速く、寒冷前線が温暖前線に追いついてできます。暖気は地表からおし上げられ積乱雲などができて激しい雨を降らせることが多い。

停滞前線……寒気と暖気の勢力がほぼ同じであると不連続線はほとんど移動しない。この前線のことを停滞前線といいます。天気は温暖前線に似た天気で悪天候が長く続く、梅雨期にできる停滞前線は梅雨前線ともいわれます。（菅）





NEC
の技術を誇る
画期的な沿岸漁業用魚探機

オールトランジスタ
FC 10
無接点方式

海上電機株式会社
本社　東京都千代田区神田錦町1～19　電話東京（291）2611～3・8181～3
神戸営業所　神戸市生田区明石町32（明海ビル）　電話（3）2628・3701（39）2380

組合長訪問 (7)

香住町漁業協同組合
組合長　西上重弐

補償三法の一本化を図れ

台風の季節となり、過日は連続的に台風が兵庫県の中央部を通過したため、県下では農林、漁業関係においても相当の被害を出したことは承知のことである。

われわれ漁業者はこうした不測の災害に対しては甚だ弱い立場に置かれている。即ち台風は勿論、潮流あるいは天候異変による不漁等を加えると、天災に対しては全く無防備と言ってよい状態である。

また何れの災害の場合でも直接生活に影響を受けることが多く、特に漁船の災害は、生活の糧を断たれてしまう結果になっている。

こうした災害を救済するために漁船損害補償法、漁業災害補償法が制定され、漁民の経済的な支えとなっている。

また漁民の立場の弱いものに漁業資金の問題がある。

漁船建造資金あるいは仕込資金については、現在漁業者には市中銀行の融資は余り期待ができず、そのため各単協で融資する事例が多くなっているが、これも全漁民がこの恩典に浴することができないので、そうした漁業者のために中小漁業融資保護法によって融資の途がひらかれている。しかしこれらの内、漁船災害補償法を除いては、制度が漁民の中に溶け込んでいないため利用も少いが、同一漁民を対象とした前記補償三法を検討して見ると、更に改正を必要のあることを痛感するものである。次に関係法毎に二、三の事項を要約比較して見ると下表の通りとなる。

このように性質の異なる補償三法を比較しても結論は出ないが、三法いづれもその目的は中小漁業の経営安定を企図したものである。

それを考えるとき最も有意義に活用されているのは、漁船損害補償法のみとも言って必ずしも過言ではない。現在補償三法はそれぞれの団体でしかも横の連絡等もなく、各縄張りの中で運用されているが、その運用を受けるのは末端の漁業者であり、しかも同一漁業者であることを思うとき、三法がそれぞれ長所を活かし、短所を矯めてこれを一本化し、カナエのごとく漁業者の経営安定のための支えになることを要望したい。

このためには先づ漁船保険特別会計の余剰金を活用することとし、保証融資保険会計、漁業共済基金会計を一本化し、政府が再保険を実施し、漁業共済、保証融資を漁民の魅力ある制度に改正しなければ、現行法では漁船災害補償法を除いて有名無実なものになってしまう。

漁船保険の余剰金について漁船が保険に加入して得た収益であるから、この金を深く、かき、真珠漁業の如く、漁船を余り利用しない漁業の漁業共済金の支払いに喰われるのではなかろうかとの不安もあり、かつまた漁船保険専担者の強い抵抗があると思われるのが、政府はこれより派生する諸問題の調整、解決を図ると共に、速やかに補償三法を一本化し、法の抜本的改正によって、全国中小漁業者が全面的に救済を受けられるような制度に改正されることを切望するものである。

現状では最も救済されなければならない中小漁業者が一番恩恵を受けていない実情を関係者は充分認識して貰いたい。

区別／種別	漁船損害補償法	漁業災害補償法	中小漁業融資保証法
目的	漁船について不慮の事故による損害の復旧及び適期における更新を容易にし、漁業経営の安定を図る	中小漁業者の営む漁業について、異常災害又は不慮の事故によって受けた損失を補填し、中小漁業者の再生産の阻害の防止及び漁業経営の安定を図る	担保力の乏しい漁業者に対し、漁業経営の安定に必要な資金の融通を円滑にする為、金融機関の中小漁業者の貸付について、その債務を保証して中小漁業の振興を図る
所属団体及びその事業の概況	県下では兵庫県内海漁船保険組合と、但馬漁船保険組合との二組合があるが、同法は制定（昭和十二年漁船保険法として発足）以来古い歴史を有しているので現在では加入隻数も多く基盤も安定して保険金支払については何等不安もない	昭和三十九年十月兵庫県漁業共済組合が設立されているが制度に欠陥が多いため加入者が全然ない。そのため香住地区沖合底曳網漁船が法改正の運動費を支払った積りで昭和四十年九月に名目加入したが、このままでは共済組合の運営も困難となるのではないかと心配されている	兵庫県漁業信用基金協会（出資金五、七七五万円、兵庫県関係市町、単協出資）があり、現在の保証限度額は兵庫県の出資を控除した残額の八倍相当額三億円まであるが、実績によると年間の最高保証額は七、〇〇〇万円である。協会は保証料の収入が少いので金利で運営しているが、運営は困難になっている
当面に改善すべき事項	政府の漁船保険特別会計では、昭和三十九年度末で、三二億円の黒字となっているので、この内二〇億円を損失準備金に積立て掘置き、一二億円を民間団体に対して引出させるよう全国運動を展開中である。	現行法では全水共で試験的に実施した時より加入条件が悪くなっているので、これの改善が急務である。この制度も漁船損害補償法のように政府の再保険とし、基金や出資金に疵のつかないようにすること及び、補償率限度の割合いを引上げること及び、補償料率の引下げを行なって真に漁民のためになる制度となることを要望する	現在三億円の保証枠があるにもかかわらず、利用の比率が少いのは、本制度が漁民に不徹底と思われるので、これの普及を図り、市内の高利貸依存から、この制度の利用に切換えるよう関係者の努力を要望する。

積丹放談 (7)

鯱

田寺伸彦

「部長、あのオ、もう一匹の鯱はとうとう逃げて仕舞ったようでありますな。」

「見事な退避ぶりであったのお。」

「追撃をかけないのでありますか。」

「バカなことを言うな、そんな必要が何処にあるのかたかが鯱の一匹や二匹……。」

「部長、あのオ、飛行機も他の船も居なくなったようでありますが。」

「早いもんよ。今日の夕刊には今まで以上に鯱の記事が賑やかに写真入りで出るんぢゃろう、作戦中止。帰ろう。」

「はッ、では部長、捕鯨船にもそのように伝えます。」

「うん、そうして呉れ、わしは未だ少しここで風に吹かれているから……。」

あのオス鯱を曳航した捕鯨船の航跡は、いつまでも赤かったと聞きました。鯱は赤い血を流し乍ら、次第次第に意識をうすめ安らかな眠りにつくように死んで行ったことと思うのです。

「……とうとう俺にも死ぬ時がやって来た。死ぬということはやっぱり嫌だなア、俺は死にたくないんだ、死ぬのは嫌なんだよ。死ぬのは、俺りゃ死にたくないんだ……。だがなア、俺には今になってやっと判ったんだ。何時のまにか姿を消して終った仲間のことが、行ったっきり帰らない仲間の最後の時のことがやっと判ったんだ。あの仲間達もやはりこの俺と同じように人間に殺されて、誰も知らない処で一人寂しく死んで行ったんだ……。え、えっ、バカに悲しい歌を唱ってるぢゃないか。あそうか、俺を、この俺を呼んでいるのか。死んだ仲間達が俺にグズグズせずに早く来いと呼んでいるのか……。

また一匹、仲間が死んだ話に射たれて、仲間が死んだもう、行くまいぞ、もう行くまいぞ、あの海に

敷きの海、乗り越えて人の居ない平和の海をさがそうよ

さがそうよ、力あわせて

あゝ、かって海の王者たり

吾等鯱、悲しみの歌

いざ共に

いざ共に歌わん。

「……あいつ、うまく逃げただろうなア、アー、なんだか体が痺れるようだ、まるで夢を見ているようだ。今日のことも、今日まで色々なことも皆んな、みんな夢のようだ、……」

また一匹仲間が死んだ話に射たれて、仲間が死んだ

あの日も暮れかかり、神戸の中央市場に鯱がひき揚げられようとしていた頃、和歌山県日ノ御岬神合を南に向け小型の潜水艦のような影が過ぎて行ったと言うことです。そして遥か西の水平線に沈んで行く太陽の最後の光は、まるで血のように赤かったと言うことです。——

瀬戸内海に迷い込んだばっかりに、大勢の人間に取り囲まれ、よってたかって面白半分に殺されて終ったあの鯱。今まで一度も来たことのない見知らぬ海の底にひとり寂しく死んで行ったあの鯱を思うと、何故か私は太平洋戦争の時の潜水艦を思い出さずには居れないのです。

あの当時、私はある老朽の駆逐艦に乗っておりましたが、海軍水雷学校で一緒に勉強した同期生の中にはに潜水艦に乗組んだ者が数人おりました。しかし、その数人の同期生は誰一人還らなかったのです。

戦争の悲惨はいうまでもないことですが、中でも逃げ場のない海上戦闘における敗者側は哀れでありました。船は沈み重油におおわれた暗い洋上に投げ出された者は、どおすれば良いのでしょうか。運の良い者は何か浮流物につかまって二日三日漂流の後奇蹟的に救助される事があるかも知れません。

しかし水深一〇〇米、毎平方糎に一〇瓩もの圧力を受ける暗黒の海中で戦う潜水艦の沈没は無残の極みでありました。

太平洋戦争も敗色濃い昭和十九年頃から、勇ましく出撃した儘その消息を絶つ潜水艦が続出し、遂に敗戦の時還らぬ、潜水艦は一二七隻に上りました。世界一といわれた日本の潜水艦隊は全滅したのです。潜水艦は全くの方面を行動していたのか。果してどのような戦果を揚げていたのか。何処で敵の攻撃を受けたのか。それ等の殆んどは判らず終いでありました。戦後、米国海軍で調べてもらっても、やはりよくは判らなかったと聞いております。

潜水艦の最大の敵は駆逐艦でしたが、お互に相手の姿を見ずに海の上と下で長時間戦うのですから、これは砲身を真紅に焼き乍ら、射って射ちまくる勇ましい海上の戦闘とは全く様相の異ったものと思います。——

「右三〇度駆逐艦！」哨戒員の鋭い叫び声、殆んど反射的に艦長の命令が矢つぎ早やに飛ぶ、「急速潜航」「深度四〇〇で懸吊」「爆雷防禦」「機関停止」「音響管制」そして米駆逐艦の執拗な爆雷攻撃が二日も三日も休みなく続く、物量を誇る米軍は数千個の爆雷を投射する。

十時間、二十時間、三十時間と重苦しく時間は経過し、艦内の炭酸ガスは四パーセント、五パーセントと増加、至近距離に投下された爆雷が艦に激しい衝撃を加え、溜水は増える一方、排水ポンプは効かない、送風機を止めた艦内の温度は極度に上昇、艦体は次第に重くなり傾斜修正のため気蓄は減、ブローした空気で艦位が敵に判るのか、また至近弾、二次電池が破損する、電気が消える、応急灯に切り替えた艦内は暗闇に近い、炭酸ガスは六パーセント呼吸は困難、その状態で二五〇個の蓄電池の中から壊れたものを取り除き、配線をなおす作業が行なわれる、塩素ガスに倒れる者も出る。

艦長以下全員は、このままジリジリと攻撃され続けるより一か八かの浮上決戦を考えているが、誰も口には出さない、浮上しても絶対に勝ちめはない、忍耐強く待つしかないことを皆知っているからだ。敵のノーカード（残弾なし）を待つしかない。敵は一隻だ、必ずノーカードになる筈だ、突如、至近弾物凄い衝撃、バルブのナットが吹っ飛ぶ、浸水、特に後部がひどい、前後傾斜が五〇度になる、耐圧深度計が下降、八〇米、一〇〇米、艦長の悲痛な叫び「総メンタク、ブロー」浸水ますます激しい、深度計は止らない。もう駄目だ、一五〇、一八〇、二〇〇、巨大な水圧が潜水艦をタバコの空箱でも踏みつけるように圧し壊す誰も知らない海の底で、誰にもみとられず、なんにもいえずに百人近い人間は一瞬のうちに死んで終う。

沈黙の日本海軍と呼ばれた中にあって、最も優秀な将兵である潜水艦乗りの大部分はこうして太平洋の海底深く沈んで行ったのだと思うのです。彼等将兵が、いつ何処で、どんな状況下に死んだのか、ほんとうのところは誰にも判りません。

しかし彼等は今もなお、太平洋の何処かで壊れた潜水艦に乗り祖国の無事を夢見乍ら仲よく眠っているのだと思うのです。

味ノ素の使い方とその用量

◇煮物のつけ味を材料の中にまで滲みこませるときは、味ノ素ははじめから添加する。

◇材料の持ち味を生かすため煮汁とかタレにだけ、つけ味を効かせたいときは、味ノ素を調味の最後に入れる。

◇味ノ素は塩に効くが砂糖には効かない。味ノ素の最低標準の用量は塩を基準にして割り出す。また味ノ素の添加を気づかれないように少めにする

◇味ノ素の効きめは熱とか加工の方法などで、変りはしないが、酸性に対しては幾分かうま味が減る。そこで酢のものにはふだんより約五%増して使うのが常法といわれる

（兵水式魚人乾協抄録）

のも用法のひとつ。量が多すぎるとかえってわるい場合がある。

◇ふつう調味に使った塩の目方の一〇%ぶんの味ノ素を使うのが上手な味つけの仕方。

助六放談シリーズ (9)

結婚のフォーム

さきごろ古い週刊誌をつら、うかうかしていると、れづれのまにひもといていたら、世はまさに〝男性過剰の時代にある〟という記事が目についた。

即ち「十年後の日本では、どんなにあがいたところで五十万人という男性が永久に結婚できない状態だ」とし、あたかも莞笑復活論に火がつきそうな解説であった。

また、今日においても、職場進出と社会的な独立によって女性の立場は強化され「男を買いたたく条件がきびしくなってきた」ことを告げ、しかもこうした女性は〝竹の柱にカヤの屋根、手鍋さげてもいとやせぬ〟といった古くさい愛情や、姑との共存生活を拒否し、かつ男には童貞であることを求めているというかは、潜在的にせよ、意識的ないらは、うかうかしていると、今から五十万人ないらは、うかうかしていると、今から五十万人ないらは、うかうかしていると、今から五十万人